

連載「現場が変わる！ チームに働きかける 母性看護 CNS の実践」が 電子書籍になりました。

関西国際大学保健医療学部
松原まなみ

2 019 年、『助産雑誌』の連載「現場が変わる！ チームに働きかける母性看護 CNS の実践」を 1 年間にわたって掲載し、9 事例を紹介していただく機会を得ました。このたび、医学書院初の企画である看護系雑誌連載の電子書籍化の第 1 号として発刊の運びとなったことは、うれしい限りです。

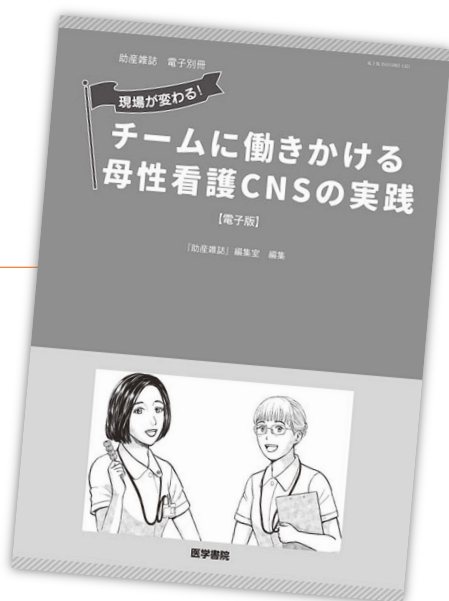
高度実践(ダイレクトケア)、調整、相談(コンサルテーション)、倫理調整などの実践について、9 名の母性看護専門看護師(CNS)の方々に事例を通してご執筆いただき、それぞれの実践には、数々の看護・医療漫画を手掛けていらっしゃる、こしのりょうさんに臨場感あふれる実践場面を描いていただきました。

患者や家族、スタッフ、組織(看護チーム、医療チーム)の潜在する問題が顕在化する前に発見して対処したり、その後に問題が起きないようにチームや組織を整えたりするのが CNS の役割です。CNS の存在がなければ、その事例はどんな転機をたどることになったであろう……母性看護 CNS の素晴らしい実践を見聞きするたびに、卓越した実践を可視化し、その価値、存在意義を世に知らしめることが急務と感じています。

本電子書籍が刊行されるに当たり、母性看護 CNS 第 1 号であり、編集・執筆を担当した三田村七福子氏は、巻末にこう記しています。

現場が変わる！
チームに働きかける
母性看護 CNS の実践【電子版】

- ・ 電子版販売価格：2200 円(本体 2000 円+税 10%)
- ・ 判型：B5
- ・ フォーマット：PDF
- ・ 販売：医書.jp ウェブサイトから購入，利用
<https://store.isho.jp/search/detail/productId/2105653010>



＊

[あなたたちには，CNS 実践を記述して報告するミッションがある]

恩 師 の ひ と り で あ る Patricia Underwood 先生の言葉です。reflection を重ね，CNS である自分の質保証に注力せよという意味，そして複雑で解決困難な問題への CNS 実践経験を提示し，看護学の発展に寄与せよという意味，この2つのメッセージを含んでいると私は思っています。(中略)

それぞれの実践報告には，現象がイキイキと語られ，苦慮された判断，対象のためにチームを機能させようとする母性看護 CNS の懸命な姿勢が見えます。

CNS として対象とチームに貢献しよ

う，その質を少しでも上げようと，おのおのが自分と組織の状況に沿って挑んでおられることが伝わってきます。

＊

『助産雑誌』読者をはじめ，多くの皆さまにこの電子書籍を手にとっていただくことで，母性看護 CNS が現場にどれだけ必要な存在かを感じてもらえることと思います。

周産期の医療現場における解決困難な課題に対する卓越した看護や，チーム・組織の力を高め，看護の質を向上させていく母性看護 CNS の実践を垣間見ること，周産期の現場，ウイメンズヘルスケアに彼女たちの力が必要であることを実感していただけるはずです。 ①